

2021年 10月22日

広島大学長
越智光夫殿

広島大学教職員組合
執行委員長 神野礼斉

専門領域長の選出方法について組合意見等

貴職の奮闘と当組合活動へのご理解とご協力に敬意を表します。

第128回団体交渉確認書（2021年8月25日開催）の表記議題について、以下を申し上げます。つきましては別途協議を希望します。

（現在の運用）

「それぞれの領域から適任者（原則として教授）を他薦により推薦し、学長が任命する。」

（R1.5.28役員会「新たな教育研究組織に対応した運営体制の詳細設計について（答申）」より）

（問題意識）

それぞれの領域内で相互の人間関係ができていない。その中から適任者を他薦するとなると限られた顔見知りの数名からの選択になり、ある専門分野に権限が集中する懸念がある。

専門領域長のみならず、学術院副委員長、および基礎領域長の選出方法についても同様の懸念がある。

（改善提案）透明性のある選出方法について

意見1：基本的にはその専門領域を構成する教員の意向投票を行い、その結果を公開した上で学長が最終的に選任する。

意見2：選出母体を専門分野ごとにして輪番制にする。

意見3：専門領域の規模等（領域下の分野の数、複数の部局の教員で構成される等）により、人事に関して各教員が受け取る情報量や情報が伝わるタイミングに違いがあるので

はないか。専門領域長・副領域長の選出方法検討の際には、領域内での情報共有のことも考慮されることが望まれる。

意見 4：今まで学科からの要望は部局へ上げていた。今回それが学科から専門領域へとなることかと思う。しかし、部局は事務やバックアップ体制があったが、専門領域にはそれら何もない。したがって、領域長が知り合いに頼む…といった右往左往が生じる。部局なみの業務発注をするならば、専門領域にそれなりに組織が必要ではないか。

以上